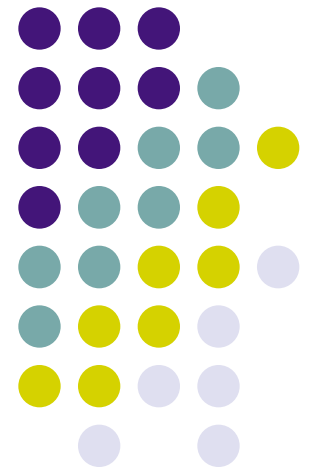


方言調査 6

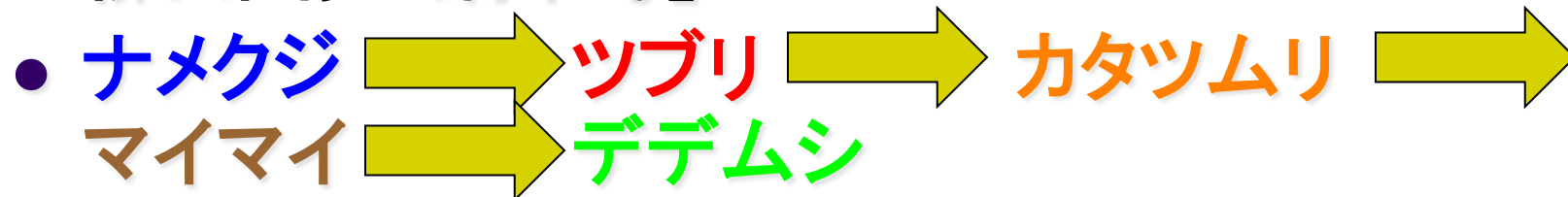
サンフランシスコ州立大学／国立国語研究所
南 雅彦



『方言周圈論』『蝸牛考』 (柳田 1930)

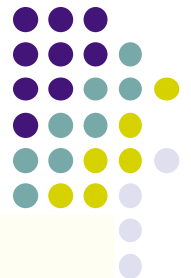


- 柳田國男「蝸牛考」



- 「方言周圈論」

- 波紋が丸い円を描いて広がってゆくように、言葉もまた都から同心円の輪を広げながら、遠くへ遠くへと伝わっていった。
- 伝播速度は1年に930メートル、1日に換算して2メートル55センチ。



『方言圏論』『蝸牛考』 (柳田 1930)

- 柳田國男「蝸牛考」
- ナメクジ → ツブリ
マイマイ → デデ
- 「方言圏論」
 - 波紋が丸い円を描いた
また都から同心円の
伝わっていった。
 - 伝播速度は1年に930
2メートル 5センチ

波状説 (wave theory)

池に石を投げた時にできる波紋のよ
うな形で言語変化が広がるという説



『方言圏論』アホ・バカ アンケート調査



東京主地域	大阪主地域	ご当地使用例
「バカ！」 (決めつけて、罵倒)	「アホ！」 (決めつけて、罵倒)	
「お前は、バカだ！」	「お前は、アホか！」	
「バカだねー」 (親しみ込めて)	「アホやなあ」 (親しみ込めて)	
「バカ野郎！」(強調)	「ドアホ！」(強調)	
「バカバカしい」	「アホらしい」	
「バカらしい」	「アホくさい」	
「人をバカにするな」	「人をバカにするな」	
「兄はバカだけど、 弟はおリコウさんね」	「兄はアホやけど、 弟はカシコイね」	

(松本修『全国アホ・バカ分布考』)

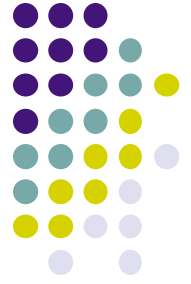
『方言圏論』アホ・バカ アンケート調査

被験者が本当にその言い方を口づけているかどうかはわからない。
無意識のうちに、共通語の言い方をしてしまうかもしれない。

東京主地域	大阪主地域	ご当地使用例
「バカ！」 (決めつけて、罵倒)	「アホ！」 (決めつけて、罵倒)	
「お前は、バカだ！」	「お前は、アホか！」	
「バカだねー」 (親しみ込めて)	「アホやなあ」 (親しみ込めて)	
「バカ野郎！」(強調)	「ドアホ！」(強調)	
「バカバカしい」	「アホらしい」	
「バカらしい」	「アホくさい」	
「人をバカにするな」	「人をバカにするな」	
「兄はバカだけど、 弟はおリコウさんね」	「兄はアホやけど、 弟はカシコイね」	

(松本修『全国アホ・バカ分布考』)

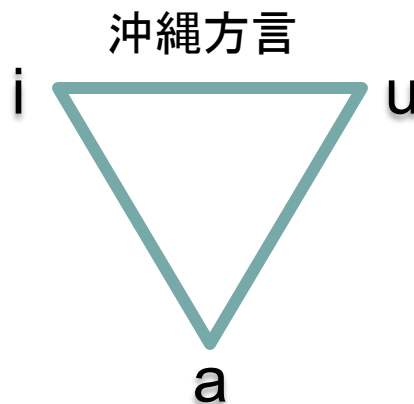
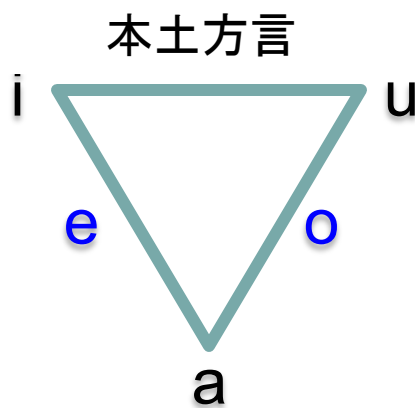
『方言圏論』アホ・バカ アンケート調査



フリムヌ・フリムン(琉球方言圏): 惚れ者

2010年2月16日から2月23日まで故郷喜界島に帰りました。島民愛読新聞『広報きかい』の力に圧倒され、「もう、まいったなあ、これでは内緒で、おなご遊びも出来ないなあ」でした。昼間1日に8回ほど、およそ周囲45キロメートルの小さな島を1周する、小型定期バスに10時ごろ乗りました。乗客は私だけで、がらがらでした。乗り慣れないバスですから、何かの時にと、運転手のすぐ斜め後の席に乗りました。運転手さんが車内バックミラーで私をじろじろ見るのです。「ひょっとしたら、フリムン徳さんではないですか、『広報きかい』で毎月写真を見て、記事を楽しく読ませてもらっています。」それが始まりでした。町の大きなスーパーマーケットの待合で、山奥の滝川小学校の先生たち、花良治村の雑貨屋に道を聞きに入ると、店員さん、お客さんが“フリムン徳さん”でした。「あんな立派な文章を書けるあなたは“賢いフリムン”」だとの噂に、心の中で喜び、笑ったりの故郷喜界島訪問でした。

『方言圏論』アホ・バカ アンケート調査



注：地域によって発音が「フラー」や「プリムヌ」になったりする。「フリムン」の語源は「狂れ者」という説あり(フレモノ[furemono]→フリムヌ[furimunu]→フリムン[furimun])。

しかし日本の最西端、八重山地方のアホ・バカ言葉は「プリムヌ」だが、八重山地方では、ハ行が「う」段を除いて[p]に変化する韻音変化の規則(ハ・ヒ・フ・ヘ・ホ→パ・ピ・フ・ペ・ポ)がありホレモノ[horemono](→ポレモノ[poremono]→プリムヌ[purimunu])に由来していることがわかる。

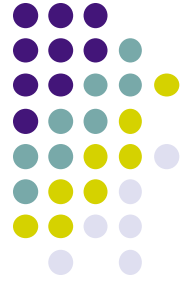
furimun

惚れ者

purimunu

惚れ者

『方言圏論』アホ・バカ アンケート調査



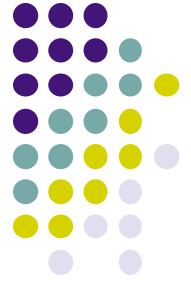
- **ホジナシ**: 本地垂迹説(神仏習合)
 - 本地とは、「本地垂迹説」。六世紀に日本への伝来を果たすや、神仏習合をめざした。本地無し＝本来あるべき姿がない。
 - よく似た仏教語表現: **ホジナシ・ホンキナシ**〔秋田〕、**モンジャナシ**〔山形〕、**ホデナス**〔宮城〕、**ヘデナス**〔福島〕
- **コケ**(虚仮): 仏教語[注:「御不浄」も同じ]〔群馬・栃木・茨城〕
- **タクラダ**(田蔵田)、**アンゴウ**(鮫鰯): 間の抜けた動物
 - よく似た表現: **タクララ**〔佐渡〕、**アンゴウ**〔佐渡・岡山・広島東部〕
- **ハンカクサイ**: 上方から北前船
 - 能登半島と東北北部の「**ハンカクサイ**(半可臭い＝半分OK程度)」は、上方から北前船によってもたらされた。

『方言圏論』アホ・バカ アンケート調査



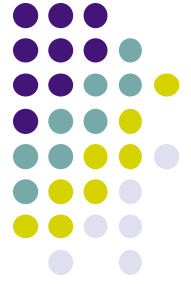
- よく似た経過を経たものに「**おこしやす**」「**おいでやす**」がある。近世前期頃、上方の遊女が使用、近世後期に上方、江戸で一般に使用されるようになった。】(『大阪のことば地図』真田 2009)
- 「**です・ます**」も江戸時代は芸者の言葉だったが、明治の初めに、標準語として普及。現在では、金持ちや上品ぶった人を表す役割語として使われることが多い。(『日本人の知らない日本語』蛇蔵&海野 2009)
- 「**～でございます**」を早口に言った「**～でござあます**」がさらに短縮した「**～ざます**」は「いる・ある」の意の丁寧語「であります・でございます」。江戸時代には吉原で「廓言葉」の一つとして遊女が使い、『閑情末摘花』に「何ざますへ」「早うざますはね」などの用法が見える。(ちなみに「**ざんす**」は「丁子屋」という遊郭特有のものが、元来は江戸の遊里語、すなわち花魁(おいらん)の言葉であった。ところが、明治維新以降、東京の山の手で使われてきた山の手言葉(方言)となる。

『方言圏論』アホ・バカ アンケート調査



- **ホジナシ**: 本地垂迹説(神仏習合)
 - 本地とは、「本地垂迹説」。六世紀に日本への伝来を果たすや、神仏習合をめざした。本地無し＝本来あるべき姿がない。
 - よく似た仏教語表現: **ホジナシ・ホンキナシ**〔秋田〕、**モンジャナシ**〔山形〕、**ホデナス**〔宮城〕、**ヘデナス**〔福島〕
- **コケ**(虚仮): 仏教語[注:「御不浄」も同じ]〔群馬・栃木・茨城〕
- **タクラダ**(田蔵田)、**アンゴウ**(鮫鰻): 間の抜けた動物
 - よく似た表現: **タクララ**〔佐渡〕、**アンゴウ**〔佐渡・岡山・広島東部〕
- **ハンカクサイ**: 上方から北前船
 - 能登半島と東北北部の「**ハンカクサイ**(半可臭い＝半分OK程度)」は、上方から北前船によってもたらされた。
- **アヤカリ**(肖り): あやかりたいほど脳天気
 - よく似た表現: **アヤ・アヤカリ**〔福井県〕、**アイカリ**〔三重・長崎(壱岐・対馬)〕
- **ダラ**: 「足らず」〔富山・石川・鳥取・島根〕

『方言圏論』アホ・バカ アンケート調査

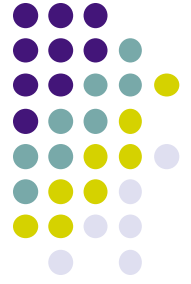


- 関西の「アホ」と「カシコイ」、東京の「バカ」と「リコウ」はセット（「バカ」は古く「アホ」はもっとも新しい都言葉で、「ダラ」「タワケ」「アンゴウ」、その中間時期に流行った都言葉）
- バカ
 - 「鹿を指して馬と言う（指鹿為馬）」を否定。
 - 白楽天「馬家の者」
 - 漢音で「バカ」（日本に平安時代以前から定着していた音）
呉音の「メケ」ではなく、平安時代。

呉音：奈良時代に遣隋使や留学僧が長安から漢音を学び持ち帰る以前にすでに日本に定着していた漢字音

漢音：奈良時代後期から平安時代の初めごろ（7、8世紀）までに遣隋使・遣唐使や留学僧などにより伝えられた漢字音

『方言圏論』アホ・バカ アンケート調査



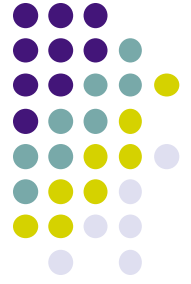
- 関西の「アホ」と「カシコイ」、東京の「バカ」と「リコウ」はセット（「バカ」は古く「アホ」はもっとも新しい都言葉で、「ダラ」「タワケ」「アンゴウ」、その中間時期に流行った都言葉）
- バカ
 - 「鹿を指して馬と言う（指鹿為馬）」を否定。

カラスの鳴き声「アホウ、アホウ」は
江戸時代に入って初めて出現

（聞いていた音）

- アホ
 - 接頭語「阿」は親しみをあらわす南方の習慣。室町時代。
 - 中国江南「阿呆」（アータイ）
 - 「アハウ」十六世紀もなかばになって、京都で定着。

『方言圏論』アホ・バカ アンケート調査



● アホ・バカ調査

- ()者。
- ()とはさみは使いよう。
- ねじが()になる。
- ()のひとつ覚え。
- ()を見る。
- 人を()にする。
- 私()よね。

『方言圏論』アホ・バカ アンケート調査



● アホ・バカ調査

- ()者。
- ()とはさ
- ねじが()
- ()のひと
- ()を見る
- 人を()
- 私()

定型表現

アメリカ人英語教師が「『先生は
お腹を**お**立てになりました』と日
本語で言ったら、同僚の日本人
教師に笑われたけれど、どうし
て?」という質問。

「腹を立てる」のようにいったん
表現が固定してしまい定型表現
・常套句となると、そこに敬語表
現を挿入できない。

(フジテレビ系列で『笑っていいとも!』
の日本在住の外国人が日本語表現に
関して質問するコーナー)